



キルギス共和国日本語教師会会報
第58号 2020年12月16日発行
Вестник Ассоциации
преподавателей
японского языка
Кыргызской Республики
№ 58 от 16.12.2020 г.

キルギス日本語教師会会報発行 20周年

ヴォロビヨワ・ガリーナ、Ph.D.

◆2020年12月16日、教師会会報第1号の発行から20周年になります。1999年にキルギス日本語教師会が正式に発足した当時、会員の多くは日本人教師でした。彼らは活発に教師会の活動に参加していましたが、現地人教師の会員はあまり多くなかったです。私は、2000年に教師会会長になったとき、教師会の活動について広く知ってもらえば現地人教師も教師会活動に積極的に参加するようになるのではないかと考え、会報の発行を提案しました。

キルギス日本語教師会会報<創刊号1ページ目> 2000年12月16日発行



◆そして2000年12月16日、教師会会長の私、副会長のミヘルチッチ・ヤネズ先生と日本国外務省支援委員会から派遣された在キルギス日本センター(当時)の中林理絵先生によってキルギス日本語教師会会報第1号が発行されました。



◆その後は編集委員会を作らずに教育機関ごとに在キルギス日本センター(現キルギス日本人材開発センター)、キルギス国立民族大学(現キルギス国立総合大学)、ビシケク人文大学(現ビシケク国立大学)、キルギス国立教育大学(現キルギス国立大学)の日本語教師が順番に発行していました。

◆教師も学生も投稿してくれて様々な原稿が掲載されました。それは教授法、国際交流基金日本語国際センターでの教師研修報告、弁論大会出場の感想、日本人教師のキルギスに関する印象記などの内容でした。

◆各教育機関の教師は日本語弁論大会などの教師会の活動についての報告とともにそれぞれの所属機関の紹介もして興味深い会報づくりをしていました。

◆会報第2号にはビシケク人文大学の日本語教育について紹介記事が掲載され、会報第3号にはキルギス国立教育大学附属東洋言語文化大学の紹介記事が掲載されました。その後キルギス国立総合大学、オッシュ国立大学などについての記事が公開されました。

ビシケク人文大学(БГУ)の紹介

本大学は、1979年に「ロシア語・文学教育大学」の名称で設立されました。当初は2学部だけでしたが、'91年8月、大学を改編しました。

'94年には「ビシケク人文大学」と改称し、現在7学部となっています。

日本語講座は、'91年に開設されました。施設として、日本から援助されたAVILL教室があり、日本語図書、ビデオ関係も整備されています。

現在、120人ほどが学んでいます。

◆会報第19号にはキルギス日本人材開発センターの紹介記事、会報第54号にはタラス市立子ども教育センター・日本語教室についての記事が掲載されました。日本の教育機関を紹介する記事もありました。例えば、ウランベック・クズ・アイヌーラ先生による国士舘大学の紹介、大西由美先生による北海道教育大学の紹介などで、記事は留学を目指す学生にとってとてもいい情報となりました。

◆2012年からは会報が教師会の編集委員会によって発行されることになりました。私は2014年9月から会報編集委員長を務めました。2000年から2020年まで第1号から第57号までの会報が発行され、ページ総数1015頁、号あたり平均約18頁でした。全部で782本の記事が掲載され、そのうち教師会会員による記事が565本、非会員からの投稿が217本、うち学生からは123本でした。

◆外国から寄せられた記事が101本掲載されました。投稿時点で日本に滞在していたキルギス人からも含め、日本、ロシア、アメリカ、中国、ドイツ、フランス、トルコ、ブルガリア、ケニア、ウズベキスタン、カザフスタン、タジキスタンなどから届いた興味深い記事ばかりでした。

◆在キルギス日本国大使館にも協力を仰ぎ、定期的に投稿を依頼しました。例えば会報第12号には渡辺修介臨時代理大使による記事「日・キルギス両国関係の見通し」が掲載されました。

◆その後、駐キルギス共和国日本国特命全権大使による記事もありました。会報27号には丸尾眞大使にご挨拶を、53号には山村嘉宏大使からキルギス日本語教師会創立20周年への祝辞をいただきました。前田茂樹大使には着任ご挨拶を会報第55号にいただきましたが、さらに第56号に「キルギス共和国日本語教師会創立20周年記念レセプション」に関しての記事を寄せていただきました。

◆会報には重要なイベントについての記事も掲載されています。例えば、会報第36号の国際交流基金の日本語国際センター開設25周年について、会報第37号のキルギス日本人材開発センター設立20周年についてなどです。

◆会報第38号にはキルギス共和国日本語教師会が平成27年度外務大臣表彰を受賞したことについて、また、会報第41号にはキルギス日本語教師会の国際交流基金「さくらネットワーク」加入の報告記事が掲載されています。そして会報第53号は、キルギス共和国日本語教師会創立20周年を記念した特集号でした。



教師会会員の成果物と教師会会報バックナンバー展示コーナー



◆2000年に創刊して以降、初めの数年間はキルギス日本センターの協力を得て会報を印刷し、会員、高等教育機関、在キルギス日本国大使館、キルギスの教育省や外務省などに届けていましたが、現在は印刷せずにPDFファイルをEメールに添付して届けるようにしています。

◆世界中でキルギス日本語教師会会報を読んでもらえるように私はEメールを使って「ヨーロッパ日本語教師会」のメーリングリストにも多くの国の日本語教育関係者にも届けています。会報はアジア、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア、アフリカの国々の日本語教師に読まれています。

◆かつてJICAボランティアとしてキルギスに派遣されビシケク人文大学で活動していた高橋知也先生が会報を毎号インターネットにアップロードしてくださるおかげで、より多くの人に読まれるようになりました。

◆高橋先生が運営管理してくれている次のサイト：
https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik
 には創刊号から最新号までバックナンバーが全て揃っています。会報第40号以降は教師会のHP：
<https://jilkyoushikai-kyrgyz.jimdofree.com/> 会報-刊行物/会員の刊行物/にも掲載されています。

◆国際交流基金日本語国際センター図書館には会報が全て所蔵されていて、世界各地域からセンターを訪れる日本語教育関係者や研修生にも読んでもらっています。

◆当初はほとんどの記事が日本語だけでなくロシア語かキルギス語の訳文付きでした。それは、キルギスの日本語教育について多くの人に知ってもらいたかったからです。日本語教師だけではなく、日本語は専門外の教育関係者や日本語の知識が浅い学生にも読んでもらおうと思いました。また、訳文付きの会報は、大学などの翻訳教材として活用できると考えたからです。

◆会報発行の意義と目的はキルギスの日本語教育事情と日本語教師会の活動を広く世界に知らせること、そして後世のために歴史に記録することにあります。会報の新しい号が仕上がり、配信されるとすぐに世界各地から意見やコメントが届きます。

◆会報は、全ての号が保存され自由に閲覧できますから、日本語教育を研究テーマにしている研究者にとって貴重な資料になっているはずで、将来キルギスの日本語教育の歩みと活動の成長を研究テーマにする研究者がもっともっと現れるよう期待しています。日本について学ぶ学生が会報を卒業論文のテーマに取り上げてくれたら嬉しいです。

◆今後もキルギス日本語教師会が発行する会報がキルギス、中央アジア、そして世界の日本語教育の歴史を記録し続けてくれることを心から祈っています。



キルギス国内日本語弁論大会～オンラインで開催～

2020年10月17日に開催した「キルギス共和国日本語弁論大会2020」についての報告です。国内弁論大会としては初めてのオンライン大会で、中上級の部だけの発表となりましたが、6機関11名の出場がありました。

【キルギス国内日本語弁論大会出場者】

No.	氏名	テーマ	所属教育機関
1	アイトバエフ・ダヴィッド	先延ばし一人の敵	キルギス国立総合大学
2	サラジャノフ・バホディルベック	締め切りがなくても	ビシケク国立大学
3	ガリヤモフ・カーリーナ	自分らしいスタイル	キルギス日本センター
4	アビティモムノワ・ローザ	持っているものの価値は？	アラバエフ付属日本学院
5	ディカンバエフ・ベクヌル	僕のヒーロー	ビシケク国立大学
6	バイボスノフ・シャヒザダ	私が尊敬する職業	キルギス国際大学
7	ムラトワ・ウムット	7歳のウムット～もう一人の自分	ビシケク国立大学
8	サビトジャノフ・サルダルベク	目的	オシュ大学
9	アセコワ・アルトゥナイ	日本語は私にとって元気の源	アラバエフ付属日本学院
10	クシタール・アルーケ	愛を示すこと	キルギス国立総合大学
11	ラッセンコ・オレグ	取り戻せないもの	キルギス日本センター



【キルギス国内日本語弁論大会2020入賞者】

1位	ムラトワ・ウムット	4位	クシタール・アルーケ
2位	ガリヤモフ・カーリーナ	5位	バイボスノフ・シャヒザダ
3位	アビティモムノワ・ローザ	6位	ディカンバエフ・ベクヌル

入賞者にはそれぞれ複勝と賞状が、また、出場者全員が参加賞と参加証書が贈られました。今回も前田茂樹キルギス共和国駐箚日本国特命全権大使はじめ根本直幸 JICA キルギス共和国事務所所長ほか多くの皆様と以下の通りキルギス及び日本の関係各機関と企業のご協力をいただきました。

在キルギス共和国日本国大使館、
 キルギス共和国日本人会、国際交流基金、キルギス・日本ビジネス協議会、
 Japan Style、IBS 事業協同組合、深谷国際外語学院、
 オンライン日本語学校 KINAKO、Japan House Keeping、SEIRYU、Yume Hashi、
 キルギス共和国日本人材開発センター

本大会開催にあたってのご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

KAJLT キルギス共和国日本語教師会
 会長 イシライロワ・ジルディズ

2020年キルギス共和国日本語弁論大会の審査を終えて

審査委員長：坂下 太一

キルギス日本人材開発センター（国際交流基金 日本語専門家）

◆はじめまして、9月1日よりキルギス日本人材開発センターに派遣された国際交流基金、日本語専門家の坂下と申します。日本語専門家としてはアゼルバイジャンに続き、2回目の派遣となります。今後キルギスのための日本語教育が発展していくお手伝いのできると思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

◆現在、キルギス国内でもコロナウイルスの感染拡大により、日本語学習環境も限定され、学習者の動機付けに苦勞されている先生方も多いと思われませんが、そのような状況の中で、今回の弁論大会に参加した皆さんは熱意のこもった素晴らしい発表をしてくれました。

◆これまでも私は弁論大会の運営や、講評に関わってきましたが、大会によって細かい審査基準は変わっても、テーマに対してどのくらい熱意を持っているか、その熱意をオーディエンスにどのように伝えるかという2点が重要であるのは、どの弁論大会でも共通しているのではないのでしょうか。

◆今回の弁論大会では、将来の夢、決意、周囲の人間への感謝など、参加者全員がテーマに対して同等の熱意を持っていることが伺えましたが、一方でその熱意を伝えるための工夫や技術は発表者によって差が見られたように思います。特に今回はビデオによる発表ということで、上位入賞者の中には、ビデオのフレームに合わせた表現の工夫をしていたことに、私も驚かされました。

◆今後、この弁論大会が参加者にとって、どのような影響を与えるかは、参加者本人だけではなく、常日頃学生のサポートをしてくださっている先生方、ご家族の皆様の評価が非常に重要になります。順位による評価だけではなく、現在の過酷な状況で、弁論大会に向けて準備を進めてくれた努力を是非前向きに評価していただき、今後の自信につながるようにしていただければと思います。



Вручение специального приза



Г-н Рысбек Молдогазиев: "Вручение специального приза им. Ишенбая Абдуразакова, учрежденного Кыргызско-Японским деловым советом (КЯДС), победителю (1-место) республиканского Конкурса ораторского искусства на японском языке Умут Муратовой. У нас растут хорошие японоведы! Огромная благодарность активистам Ассоциации преподавателей японского языка в КР за их невероятный труд и неиссякаемый энтузиазм!"

На фото слева направо: Учредитель КЯДС, президент Федерации Айкидо в КР, к.ф.н., доцент УНПК МУК Гульмиза Сейталиева, студентка БГУ Умут Муратова, экс-Чрезвычайный и полномочный посол Кыргызской Республики в Японии, Председатель Кыргызско-Японского делового совета Рысбек Молдогазиев.

初めてのオンライン日本語弁論大会

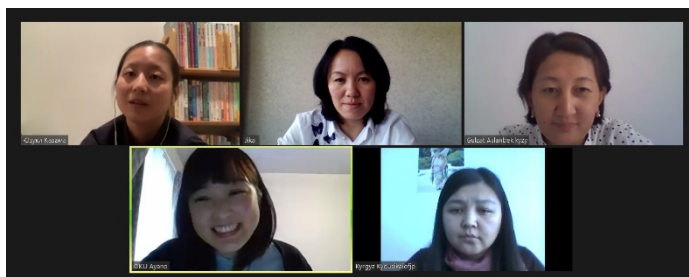
キルギス国内日本語弁論大会実行委員
ヌスワリエワ・ジルディズ

◆皆さんご存じのように、今年の春から感染が広がっている新型コロナウイルスによって、世界中で生活の流れや動きが止まってしまいました。キルギスでも小学校をはじめ、大学や遊園地、映画館やイベント会場までどこもかしこも休校、休業です。多くの人が毎日職場に出かける代わりに、家で仕事をするようになっています。もちろん、どうにかして人間の力で感染拡大を防止したいと思っただけです。仕方ありません。

◆キルギスの国内日本語弁論大会は毎年3月の下旬に行われてきましたが、今年は予定していた3月中には開催できない状況でした。けれども、キルギス日本語教師会の話し合いでは、日本語学習者の日本語への興味がなくならないように、どんなに大変な状況でも弁論大会を行うことが大切だというのが一致した意見でした。ただし、人の集まる場所ではウィルス感染の恐れがあるため、今年の国内日本語弁論大会はオンラインで開催、と決まりました。

◆2020年10月17(土) オンライン大会として開催されたキルギス共和国国内日本語弁論大会は、心配されたトラブルもなく、無事終了できました。

◆出場者は11名でした。キルギス国立総合大から



2名、ビシケク国立大から3名、アラバエフ国立大学附属日本学院から2名、キルギス日本人材開発センターから2名、キルギス国際大から1名、そして

オシュ国立大学から1名の参加となりました。

◆審査は弁論内容、表現力、質疑応答に対して行われ、弁論内容では、内容の深さ、独創性、主旨の明確さ、表現力では使った表現の深さと発音などが審査されました。

◆今回は初めてのオンライン開催だったため、参加者の人数と大会の流れやルールが例年とは違っていました。時間の節約のために参加者には事前にスピーチのビデオを送ってもらい、審査員の皆様にも大会当日前にスピーチ部分の審査を済ませていただくことにしました。

◆キルギス日本語弁論大会の歴史で今大会が初めてのオンラインでの開催でしたが、それにもかかわらず大きな混乱もなく無事に終わることができて、「本当に良かった」と自信を持って言えます。それはもちろん、主催者はもちろん、出場者、審査員の皆さん、実行委員がお互いに協力し合っていることができたからだと思います。

◆来年開催予定の国内日本語弁論大会もオンラインの形で行われる可能性が高いため、今度もみんなで力を合わせて企画・運営していきたいと考えています。お互いに協力し、力を尽くせば、どんなひどい状況でも、どんなことでも日本語教育の発展と成長のため頑張っていくことができると心から信じています。

◆みなさん、これからも日本語教育の振興に力を合わせていきましょう。新型コロナウイルスに感染しないように、くれぐれも気を付けて！

*** **



Первый опыт

Алтынай Асекова, студентка 3 курса Института японоведения им. И.Арабаева

Я впервые приняла участие в республиканском конкурсе ораторского искусства на японском языке. Вначале я не знала, о чем писать, но благодаря моим преподавателям японского языка я нашла ту тему, которая могла быть интересна слушателям.

При написании сочинения мой словарный запас увеличился, а также я стала больше практиковаться в произношении японских слов и их правописании. Этот конкурс хорош тем, что участники делятся своими мыслями и идеями с другими. Слушатели могут сделать свои выводы и вынести урок для себя, чтобы не повторять ошибок других. Все участники очень стараются, готовятся и за это получают вознаграждение – хороший опыт и памятные подарки. Хотя я и не выиграла на этот раз, но у меня появилась настрой на написание еще лучшего сочинения в следующий раз. Теперь я знаю, что и как нужно делать и очень постараюсь. Жду следующего конкурса с нетерпением!

Спасибо всем, кто организовал и провел этот конкурс. Все было честно и интересно! Я очень рада была принять участие несмотря на то, что конкурс прошел в онлайн-режиме.



弁論大会を終えて

風間 祐月 (キルギス国内日本語弁論大会実行委員)

◆10月17日、世界的な新型コロナウイルスの流行によって、延期されていたキルギス共和国日本語弁論大会が、オンラインで開催されました。私は、実行委員の一員として、この大会の準備にあたってきたと同時に、当日は質問員として参加させていただきました。

◆史上初のオンラインという形での開催で、実行委員としても前例のない中、手探りで準備を進めることになったため、いろいろと心配なこともありましたが、当日は大きな混乱もなく大会を終えることができました。世界的に大変な状況の中で、オンラインという形でも、日本語弁論大会が開催できたことを本当に嬉しく思います。それも、参加者ならびに本大会にご支援、ご協力くださいました、関係者の皆さまのおかげだと思います。ありがとうございました。

◆これまでとは違う形での開催でしたが、大会後に実施したアンケートでは、参加した全員がオンラインでの大会開催が「よかった」と回答しており、大会運営に関しても、「事前準備を含め、しっかりと運営がなされ、スムーズな進行だった」「全体がシンプルで、弁論と質疑に集中できた」「オンラインでの形態が気に入った」というような好意的な意見が多く寄せられました。

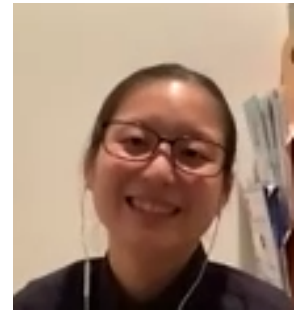
◆一方で、もちろん、対面形式での大会実施が良いと考える人も多く、また、今回参加者のスピーチが全てビデオの前撮りだったことに関して、「ビデオも悪くなかったが、一発勝負で想いを伝えるという

意味では、当日のスピーチもライブで実施されても良かったかと思う」「次回、オンラインで行う場合には、参加者のパフォーマンスもライブで開催するのはどうか」という意見が寄せられるなど、参加者の弁論を、直接目にする、耳にするからこそ伝わるものがあるのだということも改めて考えさせられました。

◆また、そのほかに、「可能であれば懇親会の代わりに学生や教師たちが交流できる時間があったら嬉しい」「審査の待ち時間に先生から学生に励ましの一言メッセージを言うのはどうか」という意見も見られました。学生同士、また学生と教師・日本語教育関係者との交流という面では、対面での大会実施に比べて、オンラインでの開催では工夫が必要になるところだと思われます。

◆そのような交流が、学生にとって新たなモチベーションにつながるという部分もありますので、オンラインでの開催であっても、そのような時間が取れる工夫をしていく必要があるかもしれません。

◆弁論大会のような大会は、これからしばらくはオンラインで開催されることが多くなるかと思われます。今回の大会実施の経験や寄せられた意見などを集約し、これからのキルギスの日本語教育活動に生かしていければと思います。



Спасибо, 弁論大会!!

Роза Абдимомунова, студентка 3 курса Института японоведения КГУ им. И.Арабаева



Когда я выбирала тему, долго выбирать не пришлось - я знала, о чём хочу рассказать. Но когда всё было готово, я почувствовала неуверенность и думала: "Смогу ли я всё рассказать? Смогу ли я понять и ответить на заданные вопросы?" В день конкурса я очень боялась и нервничала, но когда судьи тепло улыбались, мне становилось легче.

Было очень интересно послушать выступления других участников и вместе с ними отвечать на вопросы. Появилось ещё больше желания учить японский язык, чтобы разговаривать свободно. Я думала, что даже если не займу призовое место, то не буду жалеть об участии в конкурсе. И я хочу участвовать в этом конкурсе и в следующем году.

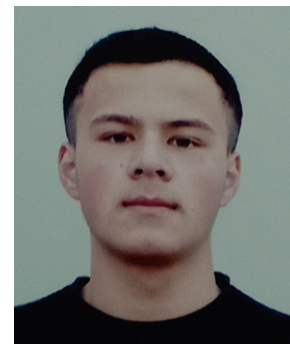
После участия у меня появилось желание ещё больше читать сочинения и писать их, потому что написание моего сочинения помогло мне в изучении японского языка, при написании я узнала и выучила много новых слов и грамматических правил. Казалось, будто я путешествовала в маленьком мире под названием японский язык, который открылся только для меня. Поэтому спасибо, 弁論大会!

Бесценный опыт

Сардарбек Сабитжанов,
студент факультета международных отношений
Ошского государственного университета.

Я, Сабитжанов Сардарбек, в настоящий момент являюсь студентом 4 курса факультета международных отношений Ошского государственного университета.

Я уже давно мечтал выступить перед широкой публикой, и вот мне представилась хорошая возможность – в моем университете объявили набор желающих принять участие в спич-конкурсе на японском языке (日本語弁論大会). Это был конкурс, в котором участнику требовалось выступить перед публикой с написанным им самим сочинением. Это было возможностью, которую я ждал, поэтому в тот же момент решил участвовать, а учителя и друзья поддержали меня в моем решении.



Честно говоря, у меня есть глоссофобия – страх публичных выступлений. Конкурс был хорошим шансом побороть этот страх. Еще одним большим плюсом для меня было выступление на японском языке, так как я учусь и совершенствуюсь во владении японским языком с первого курса учебы.

С первого дня после регистрации для участия в конкурсе я начал размышлять об идеях, которыми мог бы поделиться. Так как изучение японского языка и обучение в Японии – моя цель, то участие в конкурсе тоже стало моей маленькой целью и это все взаимосвязано, поэтому я решил написать сочинение на тему «Цель».

К сожалению, в середине марта из-за пандемии отменили запланированный спич-конкурс. Получив известие о возобновлении конкурса и о том, что он будет проведен в онлайн-режиме я поначалу был огорчен, так как долгие дни готовился выступать именно перед публикой и мне казалось, что все мои старания и поддержка близких оказались напрасными. Но конкурс прошел на высоком уровне и было видно, что организаторы приложили максимум усилий для успешного проведения конкурса.

Думаю, что я и все участники показали бы весь свой потенциал, если бы выступали перед публикой, но я все равно рад, что мне довелось принять участие в конкурсе. Я получил незабываемые впечатления от участия.

Пользуясь моментом, хочу поблагодарить организаторов за их большой труд.

弁論大会の感想

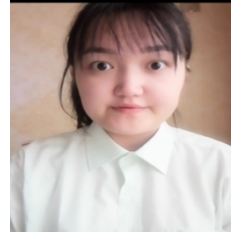
クシタール・アルーケ (キルギス国立総合大学 3年)

▼去年の12月に弁論大会について先生から聞きました。その時、考えもしないで、先生に「先生、私は参加したい」と言いました。その日から、長い準備が始まりました。

▼当時コロナウイルスのせいで、家で先生と遠隔スピーチの練習をしました。私が書いたスピーチの原稿間違いを先生はたくさん直してくれました。私の発音が不正確なので、先生も長い間教えてくれました。スピーチの練習が少し進んだとき、スピーチのあとには、質疑応答が二つあると知りました。それを知ったとき、とても緊張しました。私は日本語であまり上手に話せなかったからです。

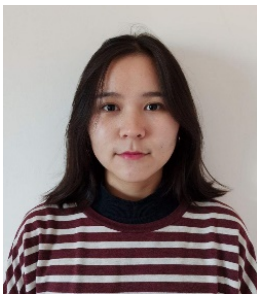
▼先生と毎週スピーチの練習をしていましたから、スピーチが少し上手になりました。

▼奥先生にとっても感謝しています。奥先生がたくさん助けられました。今回の弁論大会で、多くの優秀な学生のスピーチを見ました。そして、自分の足りないところもたくさん見つけました。実は結果は重要ではなく、努力の過程が重要だと知りました。



もう一度やる気を起こさせてくれた弁論大会に感謝！

ムラトワ・ウムット (ビシケク国立大学 4年)



▼10月17日、私は国内日本語弁論大会に参加しました。弁論大会は初めてではありませんでしたが、やはり、緊張しました。コロナに感染する人が増えて予定されていたことがたくさん中止や延期になりました。私はモチベーションを維持できなくなり、本当に何もしたくない気持ちでした。

▼でも、大学の先生から弁論大会がオンラインで行われることになったと聞いて、またやる気が出てきました。目標を見つけて嬉しくなりました。原稿を繰り返し読んで覚えて、声を出して発表したり、質問に答える練習をしたりするのがとても楽しかったです。

▼今年も参加者のスピーチは素晴らしかったです。大会はzoomのオンラインでした。便利なシステムだと思いました。生の交流ができなくて残念でしたが、画面の中だけでもリアルタイムで人と顔を合わせて声を聞いて嬉しかったです。

▼私は「7歳のウムット~もう一人の自分」というスピーチをしました。困った時や悩みがある時、私はいつも7歳のころの自分を思い出して、7歳のウムットに元気をもらいます。

▼実は、自分が優勝するなんて最後まで思ってもいませんでした。ですから結果を聞いて、飛び上がるくらい嬉しかったです。応援してくれた先生方やいつも励ましてくれた友達に、そして弁論大会に感謝したいです。大会のおかげで素晴らしい人々に会うことができました。

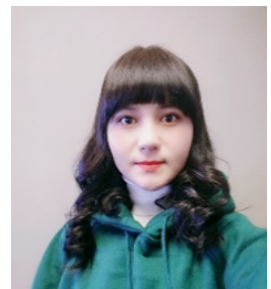
Спасибо друзьям за интересные выступления!

Шахзада Байбосунова,

студентка 4 курса факультета японоведения Международного университета Кыргызстана

Конкурс ораторского искусства на японском языке помогает участникам проявить творческие способности. Я полностью поддерживаю такие конкурсы и хочу, чтобы их было больше. Этот конкурс меня мотивировал на более углубленное изучение японского языка, хотя вначале у меня не было желания участвовать.

Хотела бы выразить благодарность организаторам данного конкурса и поблагодарить других участников за интересные выступления, так как все были достойны и талантливы.



弁論大会で得たもの～最高の報酬は自信～ ディイカンバエフ・ベクヌル（ビシケク国立大学卒業生）

▼この弁論大会は僕にとって、2回目の弁論大会でした。1回目の弁論大会に出場した時、僕は大学2年生でした。その時は緊張のあまり、うまくスピーチすることができず、恥ずかしい思いをしたし、自分自身にがっかりしました。

▼その初めての弁論大会の後、自分の失敗について考えてみました。スピーチのとき緊張しないために何をしなければならなかったか、答えを探しましたが納得できる答えは見つかりませんでした。

▼3年生のときは弁論大会に参加しませんでした。自信がなかったからです。その時参加した僕の友達は、キルギスの代表に選ばれてモスクワの弁論大会に出場しました。彼がモスクワから戻ってから、どうすればいいスピーチができるのか、彼の意見を聞いてみました。

▼彼は、最も重要なことは自信だと言いました。人は自分に自信を持っているとき、成功できる。もちろん、自信を持つためには人はしっかり準備する必要があると言いました。

▼他の人にも話を聞きましたが、誰もが口をそろえて必要なのは自信と入念な準備だと言いました。

▼僕は思い切って今年の弁論大会に参加することにしました。僕は自分にとってのヒーローについて原稿を書き、先生と一緒に毎日準備して練習しました。おかげで大学の学内大会で1位になって、大学代表としてキルギス国内大会に出場することになりました。

▼キルギス国内弁論大会では僕よりずっと素晴らしい人が何人もいました。それでも僕は自分に自信を持って大会に臨むことができました。国内弁論大会での結果は六位でしたが、この大会に参加したことで僕は最高の報酬を得ました。それは自信です！

▼今回、ずっと僕をサポートしてくれた人達に、心から感謝の気持ちを伝えたいです。みなさん、ありがとうございました！！



初めての弁論大会

ガリヤモフ・カリーナ（KRJC キルギス日本センター）

▼2020年10月17日、日本語弁論大会に参加しました。私がスピーチコンテストに参加するのは初めてであり、このコンテストがオンラインで開催されるのも初めてでした。私にとってそれは面白いことである一方で、挑戦でした。人の前でスピーチするよりもビデオを撮って Zoom 上で質問に答えるのは簡単です。しかし実際は、スピーチ動画を撮ることはとても大変でした。スピーチの動画を撮る日に風邪をひいて声が出なくなってしまうのです。次の日にも何回撮っても、声が聞こえなくなったり、スピーチ中にカメラが止まってしまったりしました。結局ビデオを撮るのに二日間もかかりました！

▼他の参加者も同じかもしれませんが、インターネット接続が悪かったせいで、大事なアナウンス中にミーティングから出てしまいました。Zoom に戻ったときにはもう、審査員しかいらっしゃいませんでした！それは、今までで一番恥ずかしい瞬間でした。

▼私は大会に出場するまでに三年間日本語を勉強しましたが、日本語でスピーチをし、質問に答えるのは簡単ではありませんでした。しかし、何とかやり遂げることができました。これからも日本語の勉強を頑張っていきたいと思います。

弁論大会の新しいフォーマット

サルジャンフ バホディルベック（ビシケク国立大学4年）



へも出かかず家にて参加できますし、自分の発表ビデオを完璧になるまで撮り直すことができます。

▼キルギス国内日本語弁論大会はコロナウィルスのせいで、オンライン・フォーマットで行われました。私も参加しました。通常の弁論大会とオンラインの弁論大会を比較して、オンラインの方がいいと思いました。どこ

▼人前で話をするのが苦手な自分にとって、オンライン弁論大会はあまり緊張しなくて良かったです。

▼いつもそうですが、今回の弁論大会も実力者が揃っていました。スピーチのテーマも興味深いものばかりでした。私は精一杯スピーチしましたが入賞はできませんでした。でも、今回の経験は私にとってとても大切なものになりました。

▼これからも同じようなチャンスがあれば挑戦していきたいと思っています。

質疑応答による新しい発想と国際交流

NPO 法人草の根国際協力会 HOPE・ボランティア
寺田たつお

◆コロナ禍という試練の中でも日本語を学び続けている皆さんと、オンライン授業を通して懸命に教え、学習者を励まし続けている教師の皆さんに、心からの敬意を表します。今の努力が実り、学習者が日本語で自分の思いを表現して国際交流や仕事ができるようになり、個人的にも社会にとっても、良き未来が開かれていきますよう、心からお祈りしています。

◆2020年10月17日のキルギス日本語弁論大会の準備と当日の運営のために労してくださった先生方、本当にありがとうございました。2019年の大会ではビシケクの会場で質問員をさせて頂きました。日本に帰国していながら、今回のZoomによるオンライン大会でも再び風間祐月先生と共に質問員として参加させて頂き、私自身励まされ、大変幸いでした。今回教えられたことを簡単に書いてみます。

◆「質疑応答」は、自分の弁論に対する質問に的確に答えられるかが試される、とても緊張する時ですね。質問員の役割は、専門家の先生が考え抜いて作られた質問文を読み上げるアナウンサーです。各参加者の弁論に感動し、一人一人の表情を見ながら「よく理解できますように、うまく答えられますように」と応援する気持ちで、自分から相手への質問として語りかけました。

◆質疑応答を通して、現在の日本語力が表れるものです。「何を尋ねられたのか、それに自分がどう答えたのか、あるいは答えられなかったのか」を意識し、自分が言いたいことをさらに突きつめて言葉にするのは、実りのある作業です。大会当日であなたの弁論は終わってはいません。自分自身の質疑応答を材料にして、さらに自分の日本語を磨くことができるのですから、ぜひ考え続けてほしいと思います。

◆弁論内容について言えば、自分の病気や家族との

死別、失敗や後悔などの体験をもとにした真剣な訴えはとても心に響きました。(例えば「先延ばしにしない」、「締め切り直前になる前に始める」という教訓は私自身にもびったりで、Zoomの画面に向かって「そう

だよね!」と思わず返事をしていました。)人は楽しいことよりもつらいことを通して学び、より良く変わることができるのだと思います。いつか変わる部分も、ゆっくり変わる部分もありますが…。

◆ところで、自分の話を聞いてくれた他人からの質問をちゃんと受け止めて答えることは、自分の経験や意見を別な角度から見直すきっかけになります。いろいろな相手とそのような対話をして、自分が持っていなかった視点からものごとを新しく見られるようになれば、私たちの世界は広がり、人間としてさらに成長することができるのです。国際交流の実りの一つですが、日本語のように母語でない言葉で「自分の経験や意見がどんな風に表現できるか」を見つける作業は、自分の心にも新しい光を当てて、より客観的に考える助けになります。

◆私の小さな体験ですが、キルギスの言葉で何年も生活して、友人たちと喜怒哀楽を共にしているうちに、日本で母語だけで考えていたかつての自分にはなかった、新しい感覚や発想が芽生えました。これは一生の財産です。

◆学習者の皆さん一人一人が、世界に向けて日本語でキルギスの声を発信できる代表となり、また国内では日本人の経験や視点も参考にしてさらに豊かなキルギスを創り上げて行く、貴重な存在となることを願ってやみません。



さらに目指すべきはスピーチ・テクニク

審査員：J.ミヘルチッチ

キルギス・ロシア・スラヴ大学准教授（国際関係学部、世界言語学科）

Янез Михельчич,

*доцент кафедры мировых языков факультета международных отношений
Кыргызско-Российского славянского университета*



◆キルギス共和国日本語教師会は、最近の20年間、毎年、ビシュケクで共和国の日本語弁論大会を開催してきました。コロナウイルスのため、今年の大会は「リモート」で行われました。参加者が事前にスピーチのビデオ録画を実行委員会に送り、各審査員がそれを見て、内容と表現力を評価し、結果を実行委員会に伝えました。2020年10月17日、参加者、審査員、実行委員会の全員がZOOM会議に集まりました。スピーチの録音を見た後、各参加者がスピーチに関する2つの質問に答え、審査員はこれらの答えを評価しました。最後に、評価の結果や受賞者が発表されました。

◆全体的な印象は、これまでと同様に、参加者の日本語の高いレベルです。全員がよく準備してきました。スピーチのトピックに関しては、個人的な問題や悩みが大半でした。10数年前なら、スピーチの大部分が社会問題に関するものでした。まれな例外を除いて、パフォーマンスの表現力もそれほど目立ちませんでした。外国語で自分の考えを表現することはそれほど簡単な作業ではありません。他方では、弁論のテクニクの乏しさが感じられました。これからそれに取り組む必要がありそうです。

Ассоциация преподавателей японского языка уже два десятилетия ежегодно организует в Бишкеке республиканский конкурс ораторского искусства на японском языке. Из-за коронавируса в этом году конкурс проводился «удаленно» – участники заранее прислали видеозаписи своих речей, каждый член жюри отдельно просмотрел и оценил содержание и выразительность выступления и отправил результаты оргкомитету. 17 октября 2020 года все – участники, члены жюри и оргкомитет – собрались на ZOOM-конференцию. После просмотра записи выступления каждый участник ответил на два вопроса, касающихся его речи, а члены жюри оценили эти ответы. В заключение были подытожены результаты оценок и объявлены победители.

Общее впечатление, как и в предыдущие годы, – чрезвычайно высокий уровень знания японского языка; все участники очень хорошо подготовились. Что касается тематики выступлений, то преобладала личная проблематика, а лет пятнадцать назад большинство выступлений было на злободневные общественные темы. Выразительность выступлений, за редкими исключениями, не была слишком яркой. С одной стороны, выразить свои мысли на чужом языке – нелегкая задача. А с другой стороны, чувствовалось незнание приемов ораторского искусства. Над этим придется еще поработать.



ズームで質疑応答

キルギス国立総合大学プレゼンテーション会に参加して

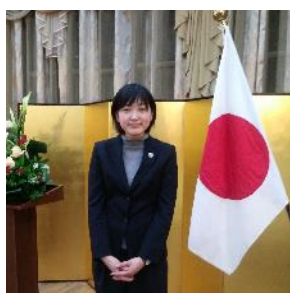
キルギス国立総合大学国際関係東洋学部
バトゥルベコワ・カシエツ

■10月9日に4年生の授業の一環で、日本人のゲストのためにキルギスについてプレゼンテーションをする会が実施されました。私はその会に参加できて、非常に幸せでした。日本人の方に自分の国について紹介するのは素晴らしい機会でした。

■私は喜んで、キルギスについて誇らしい気持ちで日本人の方に紹介しました。キルギスの場所や、キルギスのシンボルや民族衣装や伝統的な食事などについてです。プレゼンテーション会のおかげで、私たちは日本人の方と知り合い、面白い話しをして、日本人がキルギスについて知っていることや印象を聞くことができました。

■プレゼンテーション会はオンラインで実施されましたが、オンラインだからこそ、私たちはそんなに緊張しないで、落ち着いてスピーチをすることができました。日本人のゲストがとても優しく、私たちのスピーチを注意深く、興味を持って聞いてくれました。

■これからもこのようなイベントに参加できたら嬉しいです。プレゼンテーション会を企画してくれた先生方と、参加してくれた日本人のゲストに感謝しております。



■現在キルギス国立総合大学では、オンラインで授業が行われています。私自身も日本に一時帰国中ですが、日本からオンラインで授業を行っています。せっかくオンラインで授業が行われているので、学生が日本人と交流する機会をつくりたいと考えました。また、キルギスについてあまり知らない人たちにキルギスを紹介するいい機会ではないかと思い、学生が日本語でキルギスについてプレゼンテーションする会を実施しました。

■プレゼンテーション会では、3年生クラスには、他国へ派遣されていた一時帰国中の JICA ボランティアに、4年生クラスには私の知人や、そのご家族にゲストとして参加していただきました。

■各学生のプレゼンテーションの共通テーマは「キルギス」で、学生自身が詳細なテーマを考え PPT を使って発表しました。テーマとしては、「キルギスの国概要」、「キルギスの自然」、「キルギスのファストフード」、「キルギスの民族楽器」、「キルギスの伝統

的なスポーツ」、「キルギスのノールズ」、「キルギスの大学」などがありました。また、自分が好きな「カルト」について熱く語るプレゼンテーションもありました。

■学生にとって、日本語でのプレゼンテーションについて学ぶだけではなく、私以外の日本人と話すいい機会になったのではないかと思います。特に、4年生のクラスでは私とは年齢や性別が異なる方にゲストとして参加していただいたので、様々な日本語を知る機会になったと思います。

■また、ゲストにとっても、キルギスの学生のプレゼンテーションを聞くことで、キルギスを身近に感じる機会になったのではないかと思います。ゲストからは自由に海外へ渡航できる状況になったら、ぜひキルギスへ行きたいという感想をいただきました。

■私自身、JICA ボランティアとしての2年間、全てキルギスで、オンラインではなく対面で活動をしたところではありました。しかし、今はそれがかなわない状況なので、JICA ボランティアとしての残りわずかな任期を、少しでも学生にとって有意義な時間にしていきたいです。

津田塾ライフってどんな感じ？ ～Zoom で津田塾大学の学生とおしゃべりしよう～



津田塾大学 4年 三原 史子

◆2020年10月15日・11月19日に【津田塾ライフってどんな感じ？～Zoomで津田塾大学の学生とおしゃべりしよう～】という日本語活動を開催しました。これは、津田塾大学の日本語教師養成課程の一つである「日本語教授法演習」という授業の中で、私の所属する「津田塾ライフグループ」が企画したものです。この活動は新型コロナウイルスの影響を受け、グループで作成した動画とオンライン（Zoom）でのおしゃべり会をメインに行いました。

◆10月15日には、津田塾大学学生21名海外からの参加者28名の合計49名、11月19日には、津田塾大学学生18名海外からの参加者13名の合計31名とたくさんの方に参加いただきました。主に日本への留学を考えている日本語学習者を対象とし、キルギスから14名ほど、他にはタイ・マレーシア・フランス・韓国など様々な国から参加していただきました。

◆活動参加者にはまず、私たちの作成した動画を事前に視聴してもらいます。この動画では、津田塾大学のキャンパス案内や津田塾大学周辺の飲食店を紹介しました。そして、活動当日には津田塾大学の学生にも参加してもらい、動画に関するクイズをしたり、津田塾大学の学生と参加者でいくつかのグループを作りおしゃべりタイムを設けたりしました。

◆活動当日、初めは参加者も津田塾大学学生も少し緊張した様子でしたが、自己紹介の時間やクイズをやっていくうちに少しずつ緊張が溶けたようで、おしゃべりタイムではみなさん日本語でのおしゃべりを楽しんでいるようでした。日本やそれぞれの国のことや大学生活について、動画に関すること、それぞれの国や大学での新型コロナウイルスについてのことなど自由におしゃべりをする事ができたようです。

◆参加者からは、「楽しかった」「満足した」「勉強になった」といった感想をいただきました。以下は今回の活動後のアンケートからの参加者の感想の一部です。

- ①「他の大学の学生とこうやってお話できるということは嬉しかったです。できれば次回も参加したいと思います。」（10月参加）
 - ②「前もって津田塾大学の学生たちに会えてよかったです。いろんな話を通じて現在の日本のコロナ状況を知ることができてとても満足です。」（10月参加）
 - ③「トーク時間がたくさんあってとても楽しめました。」（11月参加）
 - ④「いろんな日本人の方と話すことが本当に楽しかったです。ありがとうございました。」（11月参加）
 - ⑤「日本のことについて、新たなものを勉強しました。また、みんなが親切で、グループ活動での交流はとても楽しかったです。」（11月参加）
- ◆新型コロナウイルスの影響により、例年のような活動が難しい状況でしたが、動画・オンライン（Zoom）を活用することにより、このような状況でも日本語を学ぶ方々とたくさんお話をすることができました。主催者である私たちも手探りながらですが、先生方や授業の他グループの学生や参加者のご協力もあり日本語活動を開催でき、また、「楽しかった」という声をいただけ嬉しかったです。
- ◆いつかオンラインだけでなくキルギスのみなさんとも対面でお話をすることができるようになればいいと思います。



*上のZoom画面は11月19日のおしゃべり会

Университет Цуда глазами иностранки

アルマシェワ・マリカ (ビシケク国立大学 2 年)

Малика Алмашева, студентка 2 курса ФВМО БГУ

Я никогда и не мечтала, что на 2 курсе мне представится возможность участвовать в конференции с носителями языка. В конференции я погрузилась в живой японский язык. Мне удалось послушать и поговорить не только с носителями языка, но и со студентами, которые изучают японский язык в Университете Цуда. Это тоже стало мотивацией того, чтобы серьезней изучать язык.

Видео, которое нам прислали за несколько дней до начала конференции, было красивым и очень интересным. Интересно было узнать про разные блюда, на вид это казалось очень вкусным и хотелось попробовать.

Понравилось, как задавались вопросы, была презентация с вопросами и с картинками и несколько вариантов ответа. Когда я не понимала сказанное, то смотрела на презентацию, и все становилось ясно.

Также я была приятно удивлена реакцией японцев при общении. Когда я что-то говорила, они всегда отвечали эмоционально: "Ааах, как прекрасно! Правда?!" И ты понимаешь, что тебя поняли.

А когда я из-за незнания некоторых слов не понимала вопрос, то студенты из Цуда помогали, объясняли простыми словами. И благодаря им я не пропускала обсуждение и имела возможность поговорить на японском языке.

И главное — это то, что благодаря этой конференции я поняла, что изучение языка объединяет людей, даёт возможность дружить независимо от национальности, вероисповедания и пола. Благодарна всем тем людям, которые дали возможность принять участие в конференции и получить такой важный опыт. Огромное спасибо!

■大学 2 年で日本語母語話者との「おしゃべり会」に参加できるとは思ってもみませんでした。交流会議では生の日本語に夢中になりました。日本人ネイティブの学生だけでなく、津



田塾大学で日本語を学んでいるノンネイティブの学生たちの話も聞けたし、自分からも話すことができました。このイベントは外国語を真剣に学ぼうとしている学生たちの動機付けになったと思います。

■会の数日前に送られてきたビデオはきれいでも面白かったです。料理について興味深く知ることができました。おいしそうな料理をみて、自分でも試してみたかったです。

■また、質問方法が気に入りました。プレゼンのスライドに質問と写真があって、答えは選択肢の中から選べるようになっていました。言われているだけではわからなかったこともプレゼンのスライドを見たら全部意味がはっきりしました。

■また、日本人が反応してくれるのが、びっくりするほどとても気持ちの良いものでした。私が話すと、本当にこちらに気持ちが伝わる答え方をしてくれました。「わ、すごい! ホント!？」と反応してくれるので、自分が言いたいことが伝わったんだ、とうれしくなりました。

■そして、いくつか知らないことばが質問にあってわからない顔をしていたら、津田塾大学の学生は簡単なことばでわかりやすく説明してくれました。おかげで話し合いを続けることができ、自分でも日本語で意見を言うこともできました。

■「おしゃべり会」に参加して、ことばの学習が人々結びつけ、民族や宗教や性別に関係なく仲良くするきっかけを作ってくれるのだ、ということがよくわかりました。こんな機会を与えてくれた皆さんに心から感謝したいです。ありがとうございました!

О мероприятии «ZOOM で津田塾大学の学生とおしゃべりしよう»

Сулеймен Бейсембинов, студент 2 курса ФВМО БГУ
Бейсембинов · Слеймен (БШКК国立大学 2年)



У нас 15 октября прошло мероприятие "Давайте поговорим в ZOOM со студентами университета Цуда". Главными темами обсуждения были видеогайды 2-х кафе неподалеку от университета Цуда, снятые студентами этого университета.

К приглашению к онлайн беседе были прикреплены 2 видео о кафе неподалёку от станции Таканодай. В первом видео говорилось о кафе под названием "バワナ (BAWANA)", а также о том, как до него добраться, сколько времени занимает путь, о ценах в данном кафе и о сетах блюд и способах оплаты. Во втором видео рассказывалось сразу о 2 кондитерских "DORIYAN" и "ジュノン (JUNON)", о ценах и способах оплаты в них.

В день обсуждения мы вошли в ZOOM за 5 минут до начала конференции, как и было рекомендовано в письме. В 12:00 по бишкекскому времени началась конференция. Первыми представились студенты университета Цуда, организаторы и участники данного мероприятия. Затем был краткий вводный экскурс в темы первой половины обсуждения. Затем преподаватель из Цуды показал нам вопросы квиза, ответить на которые мы должны были группой, и разделил нас на группы. Я был в группе D. В нашей группе мы познакомились друг с другом, обсудили и выбрали командой ответы для квиза и выбрали того, кто будет отвечать на вопросы квиза.

Вопросы были довольно интересными, и у меня после вопросов появилось желание на практике проверить правильность ответов, например, были вопросы: «Какой вкус напоминает карри со шпинатом?», «Какой способ оплаты в "バワナ (BAWANA)"» и т.д. по отправленным материалам.

После презентаций ответов команд началась вторая часть обсуждения. Нас снова разделили на группы, и мы обсуждали студенческую жизнь, ситуацию с коронавирусной инфекцией и какие меры принимаются по предотвращению заражения. Были довольно интересные разговоры, так как я смог услышать об опыте студентов из других стран и пообщаться с ними, узнать много нового и интересного из видеоматериалов и презентаций.

После общения в группе нас снова всех присоединили к общей конференции, где мы поблагодарили друг друга за это приятное общение и опыт, который нам, изучающим японский язык, очень пригодится в будущем. Единственной проблемой был недостаток времени для обсуждения некоторых вопросов, в чем были согласны все, и организаторы сказали, что в следующий раз постараются увеличить время.

Теперь я с нетерпением жду нашей следующей встречи, которая должна состояться в ноябре. Как нам сказали, тема следующего мероприятия будет основываться на самых интересных и актуальных вопросах, заданных участникам в финальном опросе прошедшего мероприятия.

После всего, что я узнал от студентов данного университета, после всех разговоров с ними, я захотел поступить туда на факультет международных отношений, но так как это женский университет я думал, что это не выйдет, но, почтавав о студентах по обмену-мужчинах, которые посещают лекции в университете Цуда, я подумал, что можно также пойти по их пути.



◆2020年10月17日（土）日本時間の午後1時から6時まで KASLA 第2言語習得研究会（関東）の「第106回研究会」がオンライン形式で開催されました。研究会のテーマは「第二言語としての日本語、英語などの習得研究及びその関連領域」でした。

◆コロナウイルスのため現在は陸路も空路も遠方への移動が一時的に無理になりましたが、そのためオンライン研究会が多くなって、オンラインで他国でのイベントにも参加、発表ができるようになりました。今回の研究会には104人が参加しました。参加者の中にはビシケク国立大学東洋国際関係学部日本語日本文学研究科のジュヌシャリエワ・アセーリ学科長、津田塾大学の関麻由美先生、また、以前国際交流基金日本語教育専門家としてキルギス日本人材開発センターに派遣されていた山口紀子先生も参加しました。関先生も山口先生もキルギス日本語教師会賛助会員です。

◆研究会では鎌倉女子大学児童学部子ども心理学科准教授の佐治伸郎先生が「語彙習得におけるインプットの量と質」をテーマに講演されました。研究発表も6本ありました。発表のテーマは様々で、

・「中国語を母語とする日本語学習者の和製英語の意味推測に関する研究-推測しにくい和製英語の特徴は何か-」、などです。多様なテーマの講演と発表を聞いて勉強にもなり、知り合いが増えた気がしました。



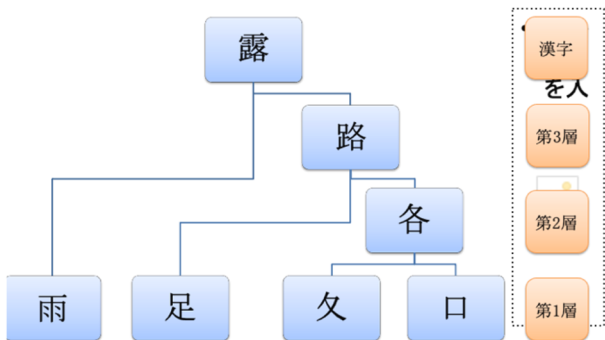
◆私も「非漢字圏日本語学習者の漢字学習の問題点と漢字指導を考える」をテーマに発表をさせていただきました。

漢字の構成上の客観的複雑性の質的要因

①直線性	品	+	飛	-
②対称性	金	+	銀	-
③細密性	齒	+	空	-
④集約性	国	+	成	-
⑤多くの平行線の有無	鼻	+	中	-
⑥同じ構成要素の有無	森	+	飛	-

24

深い理解を目指す漢字の階層構造分解 露 = 雨 + 路 (足 + 各 (久 + 口))



- ・「Behavioral Profile アプローチからみた多義語の意味分析-移動動詞「あがる」を例に-」、
- ・「体感のオノマトペの語形と意味の相関」、
- ・「日本語漢字表記和語の日中対照研究-「受ける」と『受』を例に-」、
- ・「フランス人中級日本語学習者による助詞の使用についての縦断的研究-1年間の日本滞在が及ぼす影響とは」、

◆発表の内容は非漢字圏日本語学習者の漢字学習の問題点の分析、漢字習得への階層的なアプローチ、漢字の構成上の複雑性の客観的要因と主観的感覚、漢字学習法、ビシケク国立大学で実践した「漢字学習法」という科目などでした。

◆質疑応答のときキルギスでの漢字学習法、eラーニングシステムの使用、階層的なアプローチの効果に関する質問がありました。山口先生も質問をしてくださいました。

◆そして当日、日本人の参加者から私の発表に関するメールを受け取りました。漢字字体の複雑性の分析に関して次の励ましの言葉が届きました「本日までのご発表であげられていた様々な要因、綿密に捉らえており、大変勉強になりました。先生のご研究について、さらに勉強させていただきます」とあって、今後の研究の継続の刺激になりました。今後ともできる限り様々な研究会に参加したいです。

『キルギス日本語教育研究』第5号原稿募集 2021年1月30日締切！



◆刊行の目的

・キルギス共和国日本語教師会の会員等の研究成果・実践報告の発表に資することを目的とする

◆紀要名称

・紀要名称を『キルギス日本語教育研究』とする

◆投稿内容・種類

- ・日本語教育学、日本学、授業実践・教育事情報告、通訳・翻訳、その関連分野のもので、未公刊のもの（ただし、学会等での口頭発表はこの限りではない）
- ・同じ内容の原稿を他誌に投稿している場合（二重投稿）は不採用とする
- ・「研究論文」「教育事情・実践報告」「研究ノート」の3部門と適宜「エッセイ」ほかの部門を設ける
※「研究論文」は編集委員が任命する3名により査読を経て、掲載可否の決定をする

◆投稿資格

- ・キルギス共和国日本語教師会会員
- ・キルギス共和国日本語教師会会員との共同執筆者
- ・キルギスの大学に在籍する大学院生、学部卒業生、学部生
※学部卒業生、学部生については、指導教員またはそれに準ずる者との共著に限る
- ・キルギス共和国日本語教師会会員によって構成される編集委員会が特に認めた者

◆編集・発行形態

- ・教師会内に紀要編集委員会を設け、3名の編集委員で構成する
- ・年1回刊行（PDF形式、冊子体で発行）

◆原稿の使用言語

- ・日本語・ロシア語を原則とし、その他の言語については、紀要編集委員会の判断による
※ただし、引用・用例の言語は原則として制限しない

◆投稿の方法

- ・投稿方法は、すべてE-mailでの投稿とする 提出先:紀要編集委員会 kyoushikaikyrgyz.ed@gmail.com

◆投稿できる原稿数等

- ・投稿できる原稿は、共同執筆を含め原則として1号につき2編以内とする
※ただし、編集上の都合により1編に制限されることがある

◆投稿締め切り

- ・締め切り日は次の通りとする 2021年1月30日17時（キルギス時間）必着
- ・提出後の差し替えは一切認めない
- ・締め切り日を過ぎて到着した原稿は、次号投稿分として受理する
※掲載時期を勘案のうえ、投稿を取り下げの場合は事務局まで連絡すること
- ・投稿前に必ず執筆要領に沿っているかを確認すること

[\(https://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/投稿ガイド-執筆要領/\)](https://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/投稿ガイド-執筆要領/)

◆採否の決定

- ・投稿された原稿は、学会誌委員会による審査を行い、採否を決定する
- ・採否の結果及びその理由については、締め切り日から2か月以内にEメールにて投稿者に通知する

◆査読結果の取扱い

- ・紀要編集委員会からの査読結果及びコメントその他の通知内容は、当該論文の執筆者に対する伝達を除き、非公開とする

◆論文の公開

- ・本教師会ウェブサイト内の「教師会紀要 キルギス日本語教育研究」に、全文を公開する

◆著作権

- ・『キルギス日本語教育研究』に投稿された論文の著作権は、キルギス共和国日本語教師会に帰属する
※原稿の他の出版物への転載等は、キルギス共和国日本語教師会の許可を得たうえで行うこと

キルギス共和国日本語教師会紀要編集委員会
(2020年8月)

※第5号発行は2021年3月を予定しています。

掲 載 記 事

キルギス共和国日本語教師会「会報」発行 20 周年・・・・・・・・・・・・・・・・	1～3 頁
キルギス共和国日本語弁論大会 2020 実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・	4 頁
2020 年キルギス共和国日本語弁論大会の審査を終えて・・・・・・・・	5 頁
初めてのオンライン日本語弁論大会・・・・・・・・・・・・・・・・	6 頁
弁論大会を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・	7 頁
国内弁論大会出場者の感想・・・・・・・・・・・・・・・・	6～10 頁
質疑応答による新しい発想と国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・	11 頁
さらに目指すべきはスピーチ・テクニク・・・・・・・・・・・・・・・・	12 頁
キルギス国立総合大学プレゼンレーション会・・・・・・・・・・・・・・・・	13 頁
Zoom で津田塾大学の学生とおしゃべりしよう・・・・・・・・	14 頁
Университет Цуда глазами иностранки・・・・・・・・・・・・・・・・	15 頁
О мероприятии «ZOOM で津田塾大学の学生とおしゃべりしよう»・・・・・・・・	16 頁
KASLA 第 2 言語習得研究会（関東）第 106 回研究会に参加して・・・・・・・・	17 頁
『キルギス日本語教育研究』第 5 号原稿募集・・・・・・・・	18 頁

キルギス共和国日本語教師会会報 第 58 号 (2020 年 12 月 16 日発行)

編集：キルギス共和国日本語教師会広報委員会《会報編集部》



キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com

賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com

https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会>

https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/>

Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики № 58 от 16.12.2020 г.